

“横に並んで手を携える” 連携

私のお仕事は、人の心を扱い、その人の心の健康をサポートしていくことですが、このお仕事は、私とその相手二人だけの間で行われるものではないんです。もちろん、『カウンセリング』となれば、私とその相手の二人の間での作業になりますが、例えばその相手が中学生（A君）だとしたら、A君のサポートのためには、A君の人とのつながり、具体的には両親や中学校の担任の先生、養護教諭やスクールカウンセラー、もっと広げれば、地域の精神科や心療内科などの Dr. ともお互いに情報・意見交換したり、コーディネートしたりと、“連携” することが必要になってくるわけです。こうした連携がどうして必要なのかというと、私とA君とでカウンセリングを行い、A君の中で、（混乱や葛藤を乗り越えながら）前向きな心の変化があったとき、それをカウンセラーの私だけが認めて「すごいね！」とその気持ちに後押しをしても、A君が日常の生活に戻った時に、誰もその気持ちの変化に対してプラスの言葉かけや後押しをしてくれなければ、せっかくの気持ちも萎えてしまいますよね。普段からかかわりを多く持っている、家族や担任の先生からの「すごいね！」（“ちゃんとキミを見ているよ”）というメッセージが、A君の前向きな心の何よりの支えになるんです。

“連携” は大切、でも、難しさもあります。A君のケースを取り上げてみても、たくさんの方がA君のサポートのためにかかわる可能性があるわけですよね。そうすると、誰がその連携チームの中でリーダーシップをとるのが（“キーパーソン” とも言います）調整することも必要になってくるし、それぞれの立場からの考え方や思惑というのも影響してくるので、ちょっとした言い方やタイミングから誤解や不信感が生まれたりと、連携がとれなくなってしまう危険性も大きくなるんです。

そんな連携のとりづらさを感じた時には、原点に立ち戻ってみましょう。「私たちは何のために連携しようとしているのかな…？」そうですね、私たちは、『A君の心の健康をサポートするため』にチームを組んでいるんですよね。同じ目的のためにかかわっている人たちならば、誤解や不信感も取り除けるはずだと思いませんか？ “連携” に上下関係はありません。かかわるすべての人が、横に並んで手を携えて協働するものです。普段からお互いの考え方を率直に伝え合う“風通しの良い” 環境を作るように努めることを心がけておきたいものですね。